

第3学年 社会科学学習指導案（公民的分野）

日時 平成26年11月7日（金）
 学級 久慈市立久慈中学校3年E組
 指導者 伊藤 裕佑

1 単元名 生産のしくみと企業・金融

2 単元について

(1) 教材について

本単元は学習指導要領公民的分野の内容（2）ア「市場の働きと経済」にあたり、企業が市場において公正な経済活動を行い、消費者、株主や従業員の利益を増進させる役割を担っていること、さらに生産活動以外に社会に貢献していることについて考えさせることをねらいとしている。

企業は経済の三主体のうちの一つとされ、市場経済を動かしている歯車の一部である。『学習指導要領解説』で、市場経済における企業の役割は「消費者、株主や従業員の利益を増進させる」こととされており、企業はその生産活動に関わる人、また、利用する全ての人にとって有益な活動を行わなくてはならないと理解することができる。

ところが現在、長年に渡る不況の余波も受け、市場経済には課題が散在している。例えば、劣悪な環境のもとで労働者を働かせる、いわゆる「ブラック企業」などである。過労やサービス残業を強いたり、パワハラを行ったりする企業が問題視されている。また、企業間格差も見逃すことのできない課題であり、特に従業員規模が小さくなるに連れて賃金が低くなる傾向がある。

生徒は数年後には社会に出て活躍することになる。本単元の学習を通して、市場経済のしくみと課題を知り、それらについて公正に判断し表現する力を付けることは、将来の生徒にとっても、社会全体にとっても意義のあることであると考えられる。これらのことから、本単元は教育基本法や学校教育法にも明記されているような「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度」を身に付け、社会科の目標である公民的資質の育成につながる単元であるととらえることができる。

(2) 生徒について

本研究との関わりについて、事前に生徒のレディネスを調べるために昨年度の岩手県中学校学習定着度状況調査に出題された問題に取り組ませた（右の問題）。

その結果、2つの資料を用いて正確に説明できた生徒は全体の9%に過ぎず、残りの約9割の生徒は正解を導き出すことができなかった。また不正解者のうち約4割は無答であった。不正解の理由として【誤答パターン①】のように、片方の資料の読み取りのみで解答を導いているものや、【誤答パターン②】のように資料から読み取れる内容以上に自分の推測で解答を導いているものが多く見られた。無答率の高さ、誤答パターン等を見ると、複数の資料を関連付けて思考・判断・表現するという点において課題があることが明らかとなった。

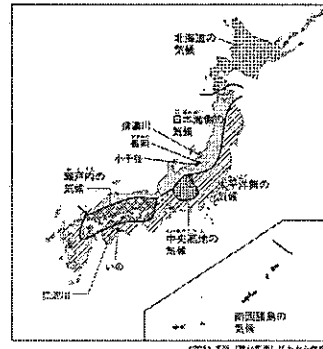
次に、本単元の内容及び社会科の学習に関する

【昨年度の岩手県学調の出題問題より】

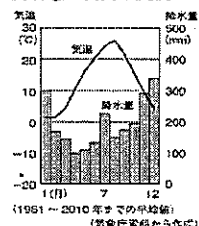
ひさん：仁淀川の流量は、1月や12月が少なく、8月が一番多いね。
 Rさん：それに比べて、信濃川の流量は、1月が一番少なく、4月が一番多いよ。

【問】 次の2つの資料を関連付けて読み取り、信濃川の流量が上になる理由として考えられることを書きなさい。

資料① 日本の気候区分



資料② 長岡の気候



【誤答パターン①】

冬の間は降った雪がとけて
 4月に川に流れるから

【誤答パターン②】

11～1月に降った雨がたま
 っているから。

る実態についてである。事前に経済の学習についてのイメージを調査したところ、「難しくてや
やこしそう」「面倒な内容そう」などの回答が目立った。その理由として「子どもにはあまり関
係なく、大人にとって大切なことである」という答えや、「自分たちにとってはあまり身近では
ないもの」と考える生徒も多いことが分かった。また、社会科の学習全体に関して、「言葉が多
く内容がごちゃごちゃしてしまう」「学習している内容のつながりが分からない」という意見
を持っている生徒もいた。

全体としては社会科の学習に前向きで、社会科の学習が今後自分が生きていく上で役立つと考
えている生徒が、約7割を占める学年である。社会的事象を自分自身のこととしてとらえ、意欲
的に学習に取り組めるような工夫をしていきたい。

(3) 単元で育てたい力、そのための具体的な手立てについて

上記の実態を踏まえ本単元の指導にあたっては、以下の三点を重点に実践を展開したい。

まず一つ目は、複数の資料を関連付ける活動の充実を図ることである。(2)の生徒の実態から、
資料を適切に読み取ること、また、複数の資料を関連付けて根拠ある思考をし表現することに課
題があることが明らかとなった。「知識基盤社会化やグローバル化が進む時代にある今こそ(中
略)、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得に努めるとともに、思考力・判断力・表現力等
を確実にほぐくむ」(『学習指導要領解説 社会編』)ことが必要で、複数の資料を関連付ける学
習活動を充実させることにより、そのような諸能力を高めたい。その際、多様な学習形態を段階
を踏んで取り入れることに留意する。まずは個人での読み取りを行い、その上で少人数グルー
プの活動に移行する。個人での読み取りや思考が不十分であっても、グループ活動の中で互いに教
え合い、学び合うことによって資料の着眼点に気付いたり、思考が深まることが期待される。

二つ目は、生徒同士の学び合い活動を充実させることである。社会に主体的に参画しようとす
る意欲や態度を育成するためには、個人で思考・判断したことを互いに交流しながら学び合い、
深めていく必要がある。普段、生徒たちが学習している教室も、視点を変えれば「社会の縮図」
である。その教室内で生徒たちが話し合い、合意形成していく過程は、将来、社会に参画してい
くための学習であるといえる。そのために、授業では少人数グループによる共同思考や討議活動
を充実させることで、互いに交流しながら学び合い、個人の考えを深めていくための工夫が必要
である。少人数グループによる共同思考や討議活動の充実を通して、社会的思考力・判断力・表
現力の育成を図っていきたい。

三つ目は、単元学習シートを活用し、単元全体を通して一つの学習問題を解決する学習活動
を行うことである。単元学習シートとは、単元全体の学習問題を設定し学習前の自分の考えを記入
する欄、毎時間「分かったこと、考えたこと」を記入する欄、単元の学習を終えた後のまとめ
を記入する欄を構造的に整理したものである。1時間1時間の学習内容を理解することができても、
それが単元の中でどのような意義があり、相互につながっているのかが分からなければ、単元全
体の大きなねらいを達成することは難しい。「学力向上のためには学習者自身の学習の変容の自
覚が必要不可欠」(堀 哲夫氏 岩手大学教育学部附属中学校公開研究会資料『新しい社会に生きる学力と教師の授業力』
より)とされ、1時間1時間の学習の成果の積み重ねを可視化し、自己の思考をメタ認知できる
単元学習シートは、学習効果の高い教材であると考えられる。また、単元の学習を終えた際に成果を
確認できることは、生徒の学習意欲を高めることにつながるとも考える。

3 単元の目標・評価規準

(1) 目標

現代の生産や金融などのしくみや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任
について考えさせる。

(2) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象の 知識・理解
企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、企業の経済活動について考えようとしている。	社会における企業の役割と責任について、企業の経済活動に関わる様々な視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	経済活動の意義、生産や金融などのしくみや働き、企業の役割と責任について理解し、その知識を身に付けている。

4 単元の指導計画 (6時間)

	ねらい	評価規準	複数資料
単元の導入、資本主義経済のしくみと企業の種類			
1	(1)単元全体の学習問題を設定し、現時点での自分の予想を立てる。 (2)企業の生産活動を中心に、資本主義経済の大まかな特徴と企業の種類を理解させる。	・単元を通して学習を進める「企業」について関心を高め、現時点(学習前)の自分の予想を意欲的に考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・企業とは何か、また、私企業と公企業の違いを理解している。 【知識・理解】	私企業と公企業に関する資料 [比較]
単元全体の学習問題 企業は何を目的に、どのような活動を行っているのだろう。			
大企業と中小企業			
2	(1)大企業と中小企業の違いを知り、現在の経済が抱える課題について考えさせる。 (2)ベンチャー企業に見られるような企業努力を具体的な事例をもとに理解させる。	・事業所数、従業員数、出荷額の視点から大企業と中小企業の違いを資料を用いて読み取ったり、まとめたりしている。 【資料活用の技能】	大企業と中小企業の事業所数・従業員数・出荷額に関する資料 [比較][関連]
株式会社とは何か、株式会社のしくみ			
3	株式会社がどのようなしくみで成り立っているのかを理解させる。	株式会社がどのように資金を集め会社を経営し、消費者とつながっているかを理解している。 【知識・理解】	株式会社と他の会社の経営方法 [比較]
金融のしくみ			
4	(1)金融機関の種類や役割を知り間接金融のしくみについて理解させる。 (2)日本銀行と一般の銀行の役割や目的の違いを理解させる。	金融機関の種類や間接金融のしくみ、日本銀行と一般の銀行の違いについて理解しその知識を身につけている。 【知識・理解】	日本銀行と一般銀行の仕事や役割に関する資料 [比較]
企業の社会的責任(CSR)			
5 〔本時〕	企業の社会的責任を知り、企業が利益だけでなく、様々な目的を持って活動をしていることを、資料を用いて考えさせる。	企業が行っているCSRについて知るとともに、様々な企業がCSRを行っている理由について、複数の資料を用いて考察し、その結果や過程を適切に表現している。【思考・判断・表現】	企業行動憲章と消費者のCSRに関する意識調査に関する資料 [比較][関連]

単元のまとめ		
6	企業のしくみや活動、役割について振り返り、単元の学習問題についてのまとめを行う。	単元全体を通して学習してきた具体の知識をもとに、単元全体の学習問題について、企業のしくみや活動、役割の視点から多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 【思考・判断・表現】

5 単元の構造図（別紙参照）

6 本時の指導

(1) ねらいと評価

ねらい	概ね達成	未達成の場合の支援
企業の社会的責任を知り、企業が利益だけでなく、様々な目的を持って活動をしていることを、資料を用いて考えさせる。	企業が、利益を求めるところを第一にしながらも、社会の信頼と共感を得るためにCSRとして様々な活動を行っていることについて、自分の言葉でまとめている。	資料中の注目すべき箇所を指摘したり、グループ活動の中で教え合いながら課題が解決できるよう助言する。まとめの際は、語句を指定してまとめに活用するように助言する。

(2) 指導の構想

本単元では、「企業は何を目的に、どのような活動を行っているのだろう。」という単元全体の学習問題を設定し、企業はどんなしくみでどのような生産活動を行っているのか、また、それは何を目的にしているのかをつかませることをねらいとしている。本時はその5時間目にあたり、単元全体の学習問題「何を目的に」に対する答えを導く1時間となる。企業は利益を追求することを第一に考えながらも、社会全体の信頼と共感を得るためにCSRとして消費者や従業員、さらには社会のためになる活動を行っているということを資料を用いて追究する。

本研究の視点に関わっては以下の二点を重点に実践を行いたい。

視点の一つ目「資料の読み取り」についてである。複数の資料を関連付ける学習活動として「企業行動憲章」や「CSRに関する市民意識調査の結果」に関する資料を読み取らせ、その上で資料を比較・関連させて企業がCSRを行う目的について考察させる。一見すると、生徒たちは企業は利益を上げることだけを目的にしていると考えがちだが、企業の行っているCSRを知ることによって、消費者や株主、従業員等の利益を増進させ、社会に貢献するという企業の役割を実態として理解させることができると考える。そしてそれが企業の利益向上につながってくるものであるということも考察させられるだろう。

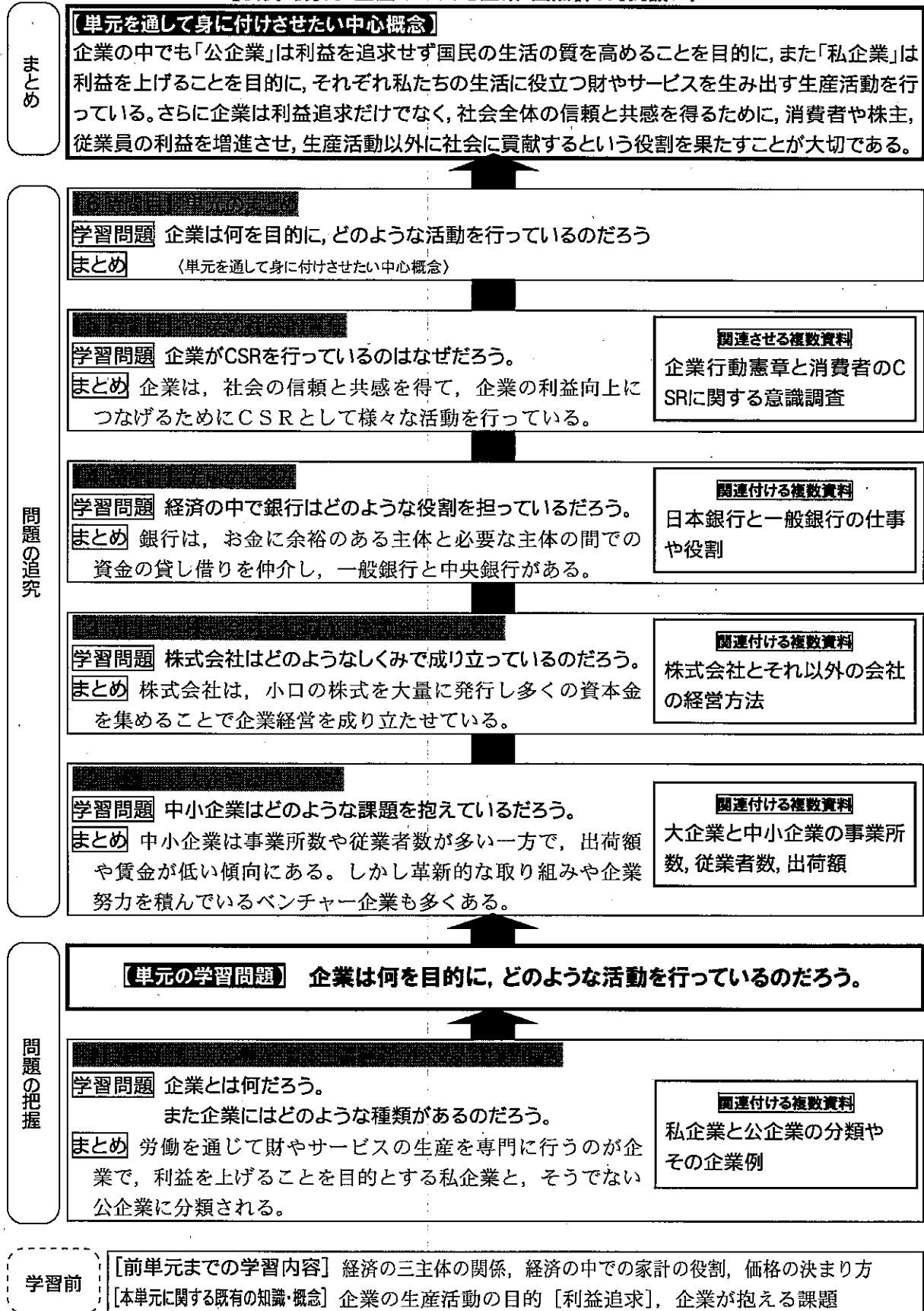
また、視点の二つ目「学び合い」についてである。追究場面において、学習問題の解決のために資料を用いてまず個人で思考する時間を確保する（グループ学習を行う上での前提条件）。その上で個人で考えた内容を基にしながら少人数グループで話し合いを行わせる。学級の中には適切に資料の読み取りができる生徒がいれば、そうでない生徒もいる。自分では気付かなかった視点があっても、少人数グループでの学び合いの中で得ることも多くある。資料の読み取りを行い、そこから得られた情報を基にして思考し、意見を出し合いながらグループとしての考えをまとめる作業を通して、「CSR」を行う理由について多面的・多角的に考察させたい。

(3) 本時の指導

段階	学習内容と学習活動	指導上の留意点	資料・評価	
8分	問題把握	<p>1 前時の復習を行う。</p> <p>2 企業の目的について確認する。</p> <p>3 CSRについて教え、企業の具体的な取り組みについて紹介する。</p>	<p>・前時までの内容から、本時の学習内容につながる重要事項の小テストを行う。</p> <p>・企業の生産活動の目的が利益であることを想起させる。</p> <p>・一見すると利益追求とは関係のなさそうに思われる活動を企業が行っていることを紹介して課題意識を高め、学習問題を設定する。</p>	<p>資料</p> <p>有名企業が行っているCSR活動に関する資料</p>
	8分	<p>企業がCSRを行っているのはなぜだろう。</p>		
32分	問題の追究	<p>4 学習問題に対する予想を立てる。</p> <p>5 学習問題を解決するために必要な複数の資料を読み取り、問題について考察する。 [個人]</p> <p>6 複数資料を関連付け、企業がCSRを行う目的について追究する。 [少人数グループ]</p> <p>7 検証する。 [全体]</p>	<p>(予想される反応)</p> <p>・消費者からのイメージアップのため。</p> <p>・利益を世の中に還元するため。</p> <p>・企業に興味を持たせ顧客を増やす。 など</p> <p>【複数の資料を関連付ける言語活動】 企業行動憲章と消費者のCSRに関する意識調査に関する資料を用いて、企業が社会の信頼と責任を得て利益を上げるために様々な活動を行っていることについて考察する。</p> <p>【少人数グループでの学び合いに関する活動】 個人で考えた内容を基にして、企業がどのような目的でCSRを行っているかを少人数グループで考察させ、話し合いの結果を用紙にまとめ黒板に掲示する。</p> <p>・学習活動6で出された少人数グループの考えを、資料の表す意味をとらえさせながら検証し、学習問題の解決につなげる。</p>	<p>資料</p> <p>日本経済団体連合会『企業行動憲章』</p> <p>資料</p> <p>「企業の社会的責任(CSR)に関する市民意識調査」</p> <p>資料</p> <p>有名企業が行っているCSR活動に関する資料</p>
	10分	まとめ	<p>8 具体的なCSR活動について紹介する。</p> <p>9 本時の学習についてのまとめを、単元学習シートを利用して行う。</p>	<p>・有名企業が行っているCSRについていくつかの事例を紹介する。</p> <p>・本時の学習を通して習得したこと(分かったこと)と、それについての自分の考えを分けてまとめる。その際、「信頼」「利益」という2つの語句を用いてまとめさせる。</p> <p>(例) 企業は、社会全体の信頼と共感を得て、企業の利益向上につなげるためにCSRとして様々な活動を行っていることが分かった。これまでは、企業は単にもうけることしか考えていなかったが、たくさんの人のためになることを行っていることを知り、これまで以上に企業の活動に興味を持つようになった。</p>
10分	10 全体で交流する。			

5 単元の構造図

【公民的分野 生産のしくみと企業・金融】(6時間扱い)



企業のCSRに関する資料

資料① CSRについて企業がより所に行っている「企業行動憲章」

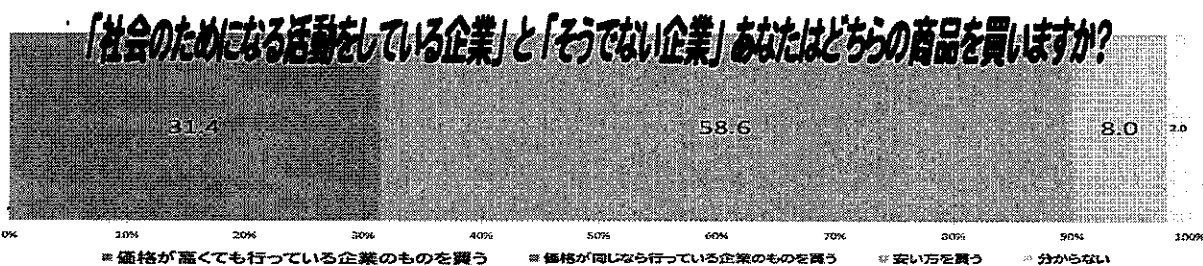
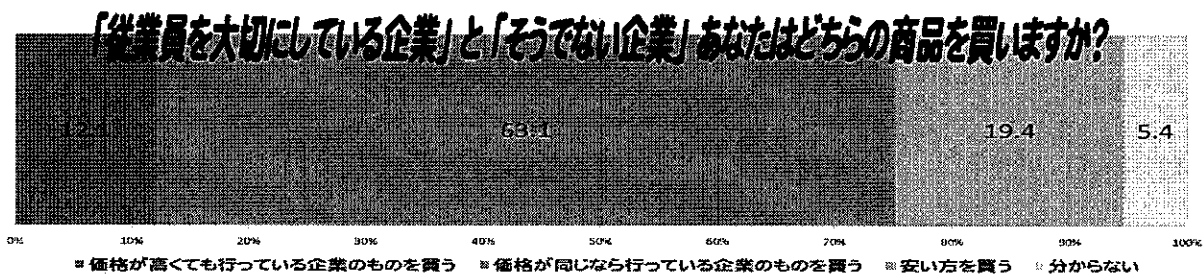
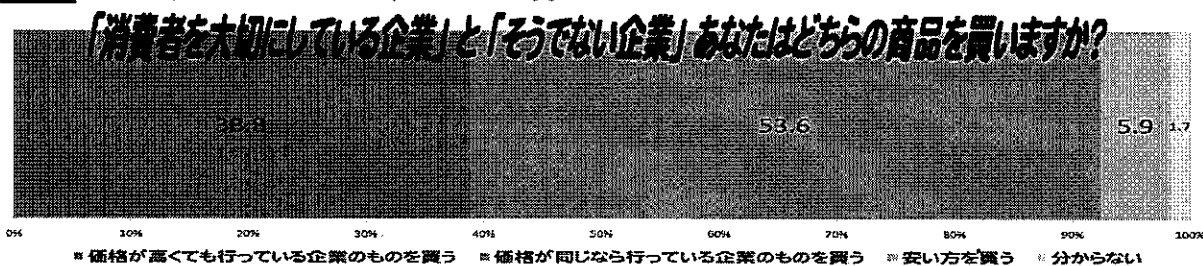
企業は、所得や働く場を確保するなど、経済社会の発展になくてはならない存在であるとともに、社会や環境に与える影響が大きいことを認識し、「企業の社会的責任(CSR)」を率先して果たす必要がある。具体的には、企業は、これまで以上に消費者の安全確保や環境に配慮した活動に取り組むなど、消費者、従業員、地域社会をはじめとする幅広い関係者との対話を通じて、その期待に応え、CSRを行うことによって信頼や共感を得るよう努めるべきである。また、人権問題や貧困問題への関心の高まりを受けて、グローバルな視野をもってこれらの課題に対応することが重要である。

10の原則と内容

- ① 社会的に役立つ商品・サービスを開発・提供し、消費者の満足と信頼を獲得する。
- ② 公正な競争と適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
- ③ 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業の情報を積極的に開示する。また、個人情報の管理を徹底する。
- ④ 従業員の個性を尊重し、安全で働きやすい環境を確保する。
- ⑤ 環境問題への取り組みに積極的に行動する。
- ⑥ 「良き企業市民」として、積極的に社会のためになる活動を行う。
- ⑦ 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは関係を遮断する。
- ⑧ 各国・地域の文化や慣習に配慮した経営を行い、発展に貢献する。
- ⑨ 経営トップは、社内ならびにグループ企業にその徹底を図るとともに、取引先にも促す。また、社内外の声を常時把握する。
- ⑩ 本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を果たし、責任を明確にした上で厳正な処分を行う。

日本経済団体連合会「企業行動憲章」より(一部改)

資料② CSR(企業の社会的責任)に関する消費者の意識



日本経済新聞広告局「『企業の社会的責任』に関する意識調査から」より

社会科学学習シート

生産のしくみと企業・金融

教p.134～145

(企業の

) … 企業が行う本来の業務とは違う活動のこと。ユニクロの植樹活動など

学習問題

①自分の考えを予想し、追究の見通しを持とう

自分の考え	他の人の考え

②資料を用いて追究しよう

資料①から読み取れること [学習問題解決のヒントになりそうなこと]	資料②から読み取れること [学習問題解決のヒントになりそうなこと]

○ 企業がCSRを行っているのはなぜだろう？（資料を用いた自分の考え）

③確かめよう

・日本経済団体連合会の「企業行動憲章」や消費者の意識調査の結果から考えると、

企業がCSRを行う目的は、

ため。

